

教育実習生のパフォーマンスを評価する 評価観点の開発研究 (2) —自己評価シートの開発と試行—

長谷川 順一・宮脇 充広*・大嶋 和彦**・石井 都**
(数学教育講座)(高松市教育委員会)(附属高松小学校)(附属高松小学校)
住田 恵津子**・河田 祥司**・山西 達也**
(附属高松小学校)(附属高松小学校)(附属高松小学校)

760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部
*760-8571 高松市番町1-8-15 高松市教育委員会
**760-0017 高松市番町5-1-55 香川大学教育学部附属高松小学校

A Study on the Development of Assessment Viewpoints of Student Teachers' Performance (2)

Junichi Hasegawa, Mitsuhiro Miyawaki*, Kazuhiko Ohoshima**, Miyako Ishii**,
Etsuko Sumida**, Shoji Kawada** and Tatsuya Yamanishi**

Faculty of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522

**Takamatsu City Board of Education, 1-8-15 Ban-cho, Takamatsu 760-8571*

***Takamatsu Elementary School Attached to the Faculty of Education, Kagawa University, 5-1-55 Ban-cho,
Takamatsu 760-0017*

要 旨 3年次小学校主免教育実習生が教育活動を評価する2種類の自己評価シートを作成した。1つは教育実習全般に関して5段階で示された数値によって自己評価を行うものであり、もう1つは授業の実施に関して4段階で示された状況記述を選択することで自己評価を行うものである。教育実習終了時に3年次主免教育実習生を対象として実施された調査によれば、自己評価シートは振り返りや今後の目標設定に有効であるとの回答が多くみられた。

キーワード 教育実習 自己評価 3年次主免教育実習 小学校主免教育実習

1 はじめに

教育実習では、実習生が授業をはじめとする教育活動についてそれぞれ目標をもち、主体的に取り組めるようにすることが重要である。そ

のためには、教育実習生が目標に照らして到達できた事項とそうでない事項とを明らかにするなど、自己評価が行える手だてを講じることが必要である。そのような観点から、教育実習生が実習期間中に用いる2種類の自己評価シート

を作成したので、本稿ではそれらを報告する。

2008年度には3年次の小学校主免教育実習生及び教育実習生を指導する附属小学校教員を対象として、基礎的な資料を得るための調査を実施した。その結果、教育実習での様々な教育活動に対する教育実習生の自己評価は、一般的に教育実習が進むに従って達成度が高くなっていった。一方、指導教員に教育実習生の評価を求めた調査の結果をみると、特に教育実践に関する項目で教育実習生による自己評価との差異がみられた（長谷川 他, 2011）。

2009年度には、教育実習全般に関する自己評価シートと授業の実施に関する自己評価シートの2種類のシートを教育実習生に配付した。前者は、2008年度に実施した調査設問を自己評価項目としたものであり、後者は今回新たに作成し試行的に用いたものである。また、教育実習最終日には3年次主免教育実習生を対象として自己評価シートに対して評価を求める調査を実施した。本稿では、教育実習生が用いる2種類の自己評価シートを紹介した上で、これらの自己評価シートについての調査結果を報告する。また、今後の検討課題に言及する。

2 自己評価シートの開発と試行

2.1 教育実習全般に関する自己評価シート

教育実習全般に関する自己評価シートの目的は、教育実習生に教育実習で習得したり再検討したりする必要のある事項の意識化を促すとともに、それによって次の目標や課題を明確化さ

せることにある。自己評価項目は、2008年度に附属高松小学校で実施した教育実習に関する調査（長谷川 他, 2011）に若干の修正を加えて構成した。修正点は以下のである。

2008年度の調査では各設問項目を習得する時期及び卒業後の進路希望についての回答を求めたが、今回はそれらは削除した。また、新たに項目を1つ加えた（設問群B, ⑦）。他の項目についても修正した方がいいとの指摘もあったが、前年度と比較する場合に備え、修正は行わなかった。さらに、シートの最後の部分には「これまでの1週間を振り返って：達成できなかったこと・達成できたこと」及び「これからの1週間の目標など」を記入する欄を新たに設けた。

自己評価は「よく達成している」を5、「ほとんど達成していない」を1とする5段階で行うものであり、図1はシートの最初の部分を示している。自己評価シート全体は、本文末の資料に掲載した（実際に使用したものはA4判4ページからなり、A3用紙1枚の両面に印刷されていた）。

本シートは附属高松小学校で教育実習を行う全ての教育実習生に配付した。記入後は回収することとし、第1執筆者が点検後に返却した。配付時期は、初回は教育実習初日とし、教育実習生全員に対する説明会で、2種類の自己評価シートへの記入方法、配付・回収・返却の方法などを説明した。また、自己評価シートの目的は教育実習の遂行に対する自己評価活動を促し、それによって教育実習に目標を持って取り

	項 目	自 己 評 価				
		よく達成している	←	→	ほとんど達成していない	
A 学 校 教 育 の 理 解	①小学校教育の目的を理解する	5	4	3	2	1
	②学習指導要領などで小学校教育課程の概要を理解する	5	4	3	2	1
	③本校の教育目標を理解する	5	4	3	2	1
	(空欄)					

図1 教育実習全般に関する自己評価（部分）

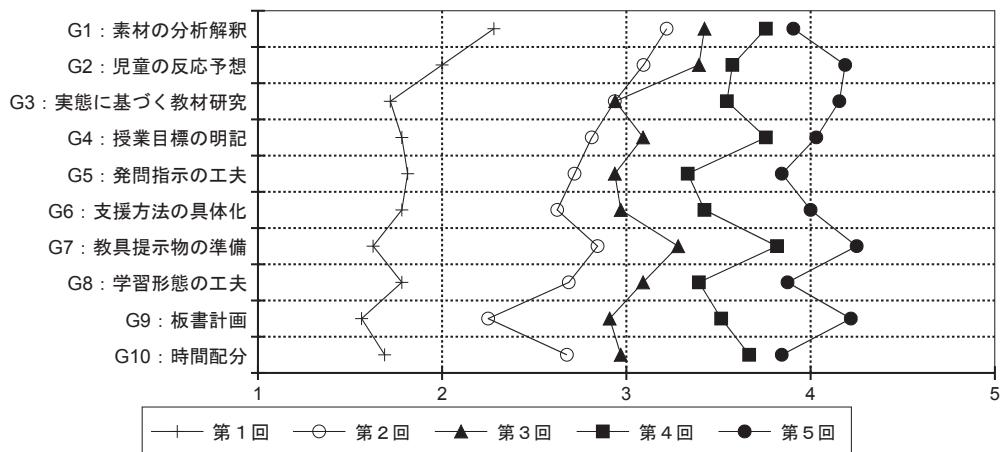
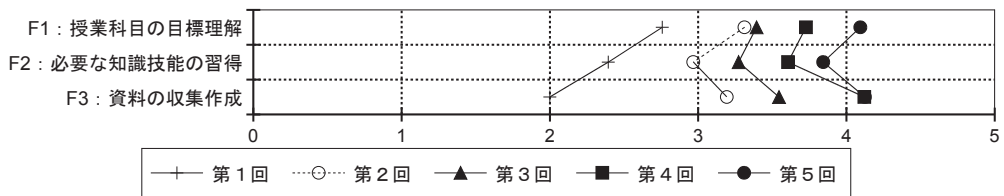
組むことができるようになること、2種類の自己評価シートは積極的に教育実習の指導教員に見てもらい記入事項などについて助言をもらうようにすること、これらは教育実習の評価（評定）とは無関係であることなどを伝えた。

初回以降の教育実習全般に関する自己評価シートの配付は、教育実習期間の第1, 2, 3, 5週の日曜日とし、翌週初めに回収するようにした。第4週は連休のため2日間しか授業日がなかったため、シートの配付は行わなかった。そのため、3年次主免実習生は5回、教育実習全般に関する自己評価シートに記

入したことになる。

2.2 教育実習全般に関する自己評価の推移

図2は、3年次主免実習生33名の自己評価での選択番号を点数とし、授業作りに関連する設問群G～Iについて各回の点数の平均値を算出して示したものである。各グラフの左端の項目見出しは自己評価項目を短く示したものであり、各項目の正確な文言は末尾の資料、あるいは前年度実施した調査研究の報告（長谷川他、2011）を参照されたい。



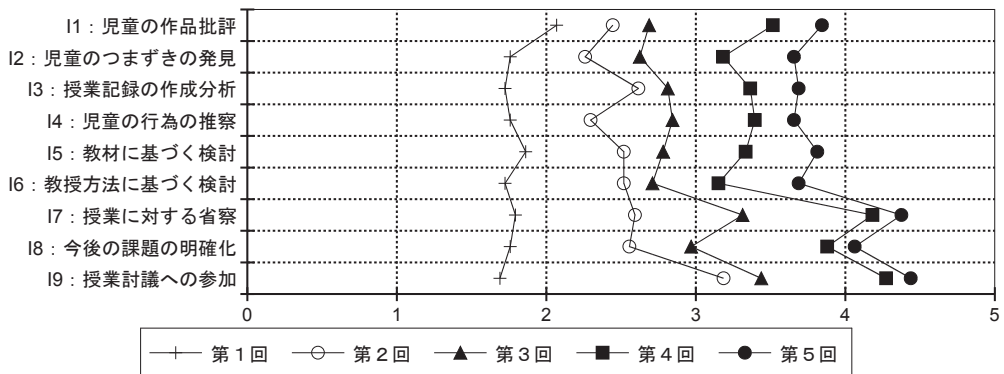
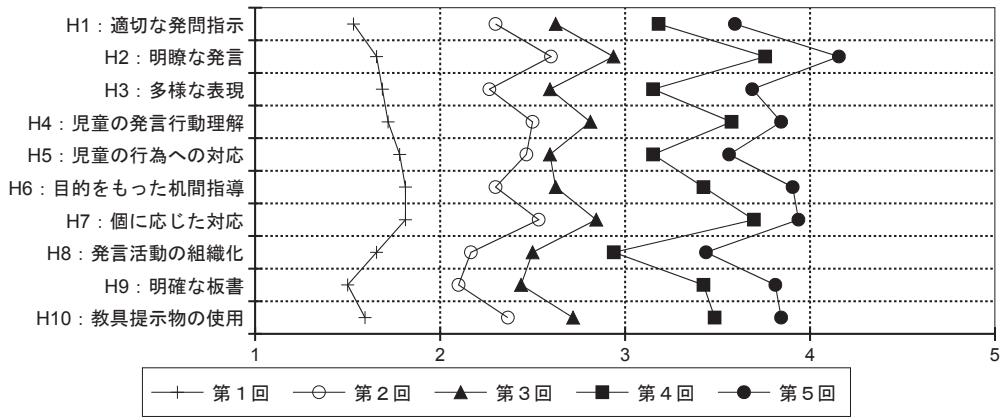


図2 教育実習全般に関する自己評価：F～Iの結果

自己評価シートへの記入目的や方法、時期が異なるため前年度の結果との厳密な比較はできない。しかし、回収時期がよく似ている前年度の第1回調査と今回の第3回の自己評価への記入、及び前年度に実施した第3回調査と今回の第5回の記入の結果について、設問ごとに平均値に差があるかどうかをt検定によって検討した。その結果、前回の第1回調査と今回の第3回の自己評価への記入について、G4「本時の授業目標を明確に述べる」のみ有意な差がみられ、今回の結果の方が平均値が低かった($t(62) = 2.02, p < .05$)。その理由は不明であるが、教育実習事前指導時などで「本時の目標」を含む指導案の作成について重点的な指導がなされたことも想定される。しかし他には有意な差はみられなかったことから、指導教員が教育実習

生の自己評価を点検することを前提として記入を求めたとしても、教育実習生の自己評価には大きな影響を及ぼさないことも推測される。但し、この点については今後の慎重な検討が必要である。

2.3 授業の実施に関する自己評価シート

授業の実施に関する自己評価シートは、今回新たに作成し試行的に用いたものである。この自己評価シートは、授業の実施に関わる「児童の実態把握・授業内容の理解・教材研究・教材作成」「指導案の作成」「授業の実施」について4段階の評価基準によって自己評価を行うものであり、教育実習生に実習を通して達成させたい目標の意識化を促すとともに授業後には実施した授業に対する省察を促し、次回以降の授業

作りの改善を図るようにすること、その指針を明確化することを目的としている。なお、本シートの1ページ目には、教育実習生の氏名、実施した授業の単元名、本時の目標などを記入する欄を設けた。

4段階の評価基準は、DとCが消極的な評

価、BとAが積極的な評価を表す記述から構成されている。教育実習生には、授業実施後、本シートに記載された記述をみながら、該当すると思うところに赤丸をつけるよう指示した。図3は、その一部を示したものである。本シート全体は、末尾の資料を参照されたい。

児童の実態把握・授業内容の理解・教材研究・教材作成

	D	C	B	A
児童の実態把握	授業を参観していないなど、児童の実態把握がなされていない。	授業参観や授業以外の場での児童の観察、必要な場合には調査を行うなどして児童の様子を見取るようとしているが、学級の大まかな反応傾向を把握するにはいっていない。	授業参観や授業以外の場での児童の観察、必要な場合には調査を行うなどして、本時の展開に関する範囲で、学級の大まかな反応傾向を把握している。	授業参観や授業以外の場での児童の観察、必要な場合には調査を行うなどして、本時の展開に関する範囲で、個々の児童の反応傾向をおおよそ把握している。
教科書などの内容理解 (教科の授業で教科書がある場合)	本時の授業に該当する教科書や教師用指導書を読んでいないが、その内容の理解が不十分である。	本時の授業に該当する教科書や教師用指導書を読み、その内容をおおよそ理解している。	教科書や教師用指導書を読み、本時の授業に必要な知識や技能を理解・習得している。	教科書や教師用指導書を読み、本時の授業に必要な知識・技能だけでなく、単元を通して、あるいは前後の学年で扱われる本時に関連する内容についても理解している。

図3 授業の実施に関する自己評価シート（部分）

授業の実施に関するシートも附属高松小学校で教育実習を行う全ての実習生に配付したが、特に3年次主免実習生には2種類の自己評価シートを綴じるためのファイルを配付し保存できるようにした。また、授業後の授業討議や指導教員による指導の際には、本シートを提示し指導を受けるようにした。但し、時間の都合などで、授業後の指導の際に本シートを十分に活用できなかった教育実習生も散見された。授業の実施に関する自己評価シートは、記入後の回収は行わなかった。

また、附属高松小学校の教員には、教育実習生が授業を実施した後、可能な限り本シートを点検し、なぜその項目に○をつけたか、消極的な項目に○がつけられてる場合は、どのように改善すればいいと考えているかなどを尋ねてもらおうよう依頼した。

3 自己評価シートについての調査

3年次教育実習最終日に3年次主免教育実習生を対象として、2種類の自己評価シートについてのアンケート調査を実施した。設問は、以下のものであった。なお、回答は無記名で求めた。

1-1 「教育実習全般に関する自己評価シート」について聞きます（本シートの説明を付したがここでは略）。この自己評価シートは、あなたが教育実習を行う上で有用あるいは効果的でしたか。[選択肢：①有用あるいは効果的だった ②どちらかという有用あるいは効果的だった ③どちらともいえない ④どちらかという有用でも効果的でもなかった ⑤ほとんど有用でも効果的でもなかった]

1-2 教育実習全般に関する自己評価シートについて、上で、その番号を選択した理由を具体的に記述してください。

2-1 「授業の実施に関する自己評価シート」について聞きます。この自己評価シートは、あなたが教育実習を行う上で有用あるいは効果的でしたか。（選択肢は1-1と同一（略））

2-2 授業の実施に関する自己評価シートについて、上で、その番号を選択した理由を具体的に記述してください。

その結果、3年次教育実習生全員（34名）から回答が得られた。図4は、選択肢の回答分布を表したものであり、棒グラフの上の数値はその項目の選択者数を表している。図中に示した凡例は、「実習全般」は「教育実習全般に関する自己評価」を、「授業実施」は「授業の実施に関する自己評価」を表している。

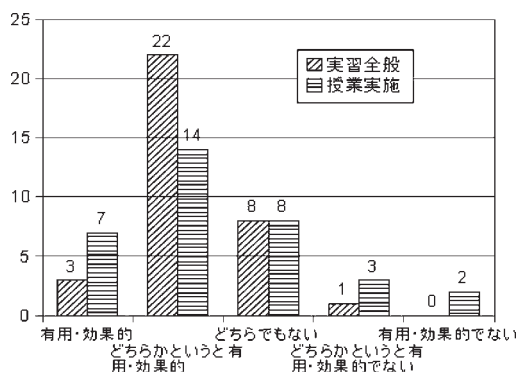


図4 自己評価シートの評価：選択肢の分布

最も選択者数が多かったのは、どちらも「②どちらかという有用あるいは効果的だった」であり、実習全般に関するシートでは64.7%のものが、授業の実施に関する自己評価シートについては41.2%のものがこの項目を選択していた。「①有用あるいは効果的だった」とするものは、実習全般に関するシートよりも授業の実施に関するシートの方が多かった。また、全般的に肯定的回答が多くみられた。

次に6名の選択回答の理由の記述を示す。S₁～S₆は教育実習生を表す。各欄の最初の丸囲みの数字はその教育実習生が選択回答した選択肢の番号であり（①が最も肯定的な評価，⑤が

	教育実習全般に関する自己評価シート	授業の実施に関する自己評価シート
S ₁	③ 最初は大事だと思いましたが毎週でなくてもいいと思いました。	⑤ 時間を上手く使うことができずシートを使うことができなかったから。
S ₂	② 毎回記入するときに過去の評価シートを見ながらしていたが、評価が段々上がってくるのを数字として自分自身で実感でき自分の成長を感じることができたから。また、自分自身を見つめ直す、とてもよい機会になったから。	④ 自分で振り返るのには有効だったけど、先生からご指導いただく時には具体的に（あの発問がどうだった、など）お話ししていただくことが多かったので、余り活用することができなかった。
S ₃	③ 設問1C児童理解の質問項目「カウンセリングマインドをもって児童と接する」や、「心理学、教育学の知識を持つ」は、ほぼ数字に変化がないため、自分がいかに知識不足かが分かる。しかし、実習中は忙しくて他の勉強に手が出せず、改善する時間がないため、毎回項目を設けられるのはつらかった。	① 数字にほぼ変化がなく、自分の実力はいつでも目標が高くなっているのだと実感できたからこそがんばれたから。
S ₄	② 自分がだんだんできるようになっていくのが分かったし、次の課題を文字にして書くことで、がんばろうという気持ちになったから。ただ、金曜はバタバタするので書くのが大変だった。	② 自分の反省をしっかりと項目ごとに振り返ることができて課題が見つかったから。授業が立て続けにあった時は書くのがめんどうになることもあった。次の課題が見つかることで、やる気にもつながったように思う。
S ₅	① 1週間ごとに実習を振り返り反省することができたほか、目標を立てることで目的をもって実習に臨むことができた。また、前回の反省を振り返ることができるため、今の自分は何を強化していかなければならないのかを明確にすることができた。	② 1回1回授業の反省をすることができ、自分の足りないところを目に見えるものとして残すことができた。また、自分の成長も記録として残すことができるのも良かったと思う。
S ₆	② 自分が1週間ごとに振り返りをするのができ、その度に次週はこれを気をつけよう、これをやってみようという目標を持って臨むことができたと思う。	① 自分の授業後は常に反省や後悔ばかりで良いところは1つもなかったと落ちこむことが多々あるが、4段階で自分で客観的に自己評価すると「教具作りは頑張れたな」というように自分を誉めてあげることでできる項目もいくつか出て来た。そのことで次にまた生かしたり、次はこの項目を頑張ろうなど、次へ次へと目を向けることができた。

最も否定的な評価)、以降の文章が教育実習生の記述である。

このように、肯定的な理由としては、成長の実感、反省の視点や目標や課題の明確化をあげるものが多くみられた。一方、否定的な理由としては、記入が大変、改善をする時間的余裕がないなどの時間的制約の他、利用する機会がなかった、あるいは上には示さなかったが、項目が多い、表現が一般的なので授業ごとに変えてほしいなどの意見もみられた。

これらの自己評価シートを用いて教育実習生を指導した教員からは、次のような点で自己評価シートは有効であるとの指摘があった。

- ・教育実習生が実践を客観的に自己評価できる「ものさし」をもつことができる
- ・段階的に自己の伸びが実感できる
- ・指導教員と評価の観点が共有できる
- ・課題解決に向けて、具体的なイメージや目標をもつことができる
- ・指導の意図が伝わりやすい

また、実習の段階に応じた自己評価シートの活用方法を工夫することが課題であるとの指摘もなされた。

4 考 察

2種類の自己評価シートを用いて、教育実習生の自己評価活動の促進を図ろうとしたのであるが、3年次主免教育実習生を対象とした調査結果をみると、これらのシートの使用は肯定的に受け止められていたことが分かる。以下では、2種類の自己評価シートについて、今後検討する必要のある課題を述べる。

①設問項目や各段階を表す記述表現の検討

例えば教育実習生の記述にもあった、教育実習全般に関わる自己評価シートの「児童の発達についての心理学・教育学の知識をもつ」は、教育実習に学部教員が参加し、事例を通してそのような知識を教授するなどの機会を持たない

限り、教育実習生が実習中に学習を進めることは困難であろう。教育実習の指導体制も視野に含みつつ、設問のあり方を検討する必要がある。

授業の実施に関する自己評価シートについても同様である。本シートに示された各段階を表す記述は、全ての授業に当てはまるものではない。個別の授業にそくしたシートが作成できればいいのかもしれないが、それは甚だ困難であり、それぞれの授業にそくした指導は、授業後の検討会で行われている。但し、それぞれの記述が適正なものであるかどうかは、今後も使用する中で検討し適宜修正を加えていく必要がある。

②自己評価の実施方法

シートの配付方法であるが、今回は教育実習期間中の曜日を決めて配付したが、今後も用いるとすれば、教育実習の最初に必要な枚数を綴じたものを配付するなど考えられる。記入された自己評価シートを見ながら教育実習生と指導教員が協議する、その方法の開発も求められる。授業後には、限られた時間内に授業の反省を行ったり討議会をもったりしなければならないが、その中に評価シートを用いた時間をどのように確保していくか、そのモデルケースを作り検討する必要がある。

③自己評価の有用性

先に述べた事項とも関連するが、教育実習生に自己評価の有用性をどのようにして実感させるかは大きな課題である。そのためには、自己評価を行うことによって次に実施した授業が改善されたといった、自己評価の効果を実感する機会のあることが望まれる。それには、教育実習生が自己評価の項目の中で特に意識して取り組む事項を重点項目として取り上げるよう指導する、重点項目を教育実習期間のどの時期にどのように配置するかを計画する、なども求められる。

いうまでもなく、自己評価シートに示された項目や記述は教育実践の全てを覆うものではな

い。抜け落ちている点については、教育実習生と協議する中で指導教員が教育実習生に指摘しつつ、両者で協議を深めることが重要である。

教育実習の充実・強化が重要な課題となっている。その一環として、教育実習生が目的を明確にしつつ主体的・積極的に実習に取り組んだり、教育実践に省察を加えるなどを促す自己評価のあり方をさらに検討する必要がある。

文 献

長谷川順一・井本正隆・田崎伸一郎・辻 幸治・宮脇充広・高尾明博 (2011)「教育実習生のパフォーマンスを評価する評価観点の開発研究(1) - 3年次小学校主眼教育実習生を対象とした基礎的調査とその結果 -」

付 記 本調査研究は、学部・附属学校園共同研究機構が行う2009年度の学部・附属学校園共同研究プロジェクトとして実施された。本稿の第2執筆者は、本研究が行われた当時は附属高松小学校に在職しており、協働して本研究に携わった。

教育実習に関する自己評価シート（2009年度）

番 号	氏 名	相 当 学 級	年 組
--------	--------	------------------	--------

* 記入日を書いてください → 記 入 日 月 日

設問1. 以下に示した各項目について、あなたの現時点での達成の程度を自己評価してください。評価は、5～1の
内、あてはまると思う番号1～5に○をつけてください。
選択肢の番号は、以下の通りです。まちがいがないように注意してください。

5：よく達成している、 4：どちらかというと達成している、 3：どちらともいえない
2：どちらかというたと達成していない、 1：ほとんど達成していない

項 目	自己評価		
	よく達成している	← →	ほとんど達成していない
A 学校教育の目的を理解する	5	4 3 2 1	1
②学習指導要領などで小学校教育課程の概要を理解する	5	4 3 2 1	1
③本校の教育目標を理解する	5	4 3 2 1	1
(空欄)			
B ①教育や教職の重要性を理解する	5	4 3 2 1	1
②教育の場に応じた服装や態度、言葉遣いをする	5	4 3 2 1	1
③専門領域とは異なる教科や教育活動などにも関心を持つ	5	4 3 2 1	1
④教育の今日的課題について主体的に考えをまとめ深める	5	4 3 2 1	1
⑤毎日、実習録を整理記入する	5	4 3 2 1	1
⑥健康状態や時間などを自己管理する	5	4 3 2 1	1
⑦個人情報や守秘義務について理解し実行する	5	4 3 2 1	1
(空欄)			

(次のページに続きます。)

項 目	自己評価		
	よく達成している	← →	ほとんど達成していない
C ①児童の発達についての心理学・教育学の知識をもつ	5	4 3 2 1	1
②児童の発達に応じて対応する	5	4 3 2 1	1
③休み時間などに児童と遊ぶ	5	4 3 2 1	1
④目立たない児童にも関わる	5	4 3 2 1	1
⑤児童と積極的にコミュニケーションをとる	5	4 3 2 1	1
⑥カウンセリングマインドをもって児童に接する	5	4 3 2 1	1
⑦記録をとるなどして児童の実態を把握し理解する	5	4 3 2 1	1
⑧児童の行動・行為の背景を推察する	5	4 3 2 1	1
D ①朝の会や帰りの会を運営・指導する	5	4 3 2 1	1
②給食や清掃の指導をする	5	4 3 2 1	1
③児童に公平に関わる	5	4 3 2 1	1
④児童の出席や健康状態を点検する	5	4 3 2 1	1
⑤学級や学校の行事などの場で児童の集団を指導する	5	4 3 2 1	1
⑥学級集団の特長を理解する	5	4 3 2 1	1
E ①実習生仲間と一緒に教材や指導案を検討する	5	4 3 2 1	1
②他の実習生の授業などの教育実践を記録し分析する	5	4 3 2 1	1
③教育実践を相互に批評し合う	5	4 3 2 1	1
④指導教員や他の実習生の指導・助言を受け入れる	5	4 3 2 1	1
⑤場に応じてリーディングをとる	5	4 3 2 1	1

これ以降は、授業の実施に関わる項目です。あなたの専攻領域に対応する小学校教科があればその教科をもとに回答してください。専攻領域が教科教育ではない場合は、あなたが最も得意とする教科、あるいは教科外の授業を一つ決め、それをもとに回答して下さい。

以下で回答する小学校の授業・教科名を書いてください →

上に記した授業を、今までに何回行いましたか（1 授業時間の授業実施を1回と数えてください）。

上に書いた授業の実施回数 →

上に記した授業科目以外の授業は、今までに何回行いましたか（1 授業時間の授業→1回）。

上記以外の授業の実施回数 →

設問2. 以下の各項目について、今までの設問と同様に回答してください。1頁に戻って選択肢を確認して下さい。

項 目	自 己 評 価				
	よく満足している	←	→	ほとんど満足していない	
F 教科等の内容理解	5	4	3	2	1
①当該の授業科目の目標を理解する					
②指導案作成や授業の実施に必要な教科や授業の内容に関する知識・技能などを習得する	5	4	3	2	1
③授業に必要な資料を取集・作成する	5	4	3	2	1
(空欄)					
G 指導案の作成	5	4	3	2	1
①教科書などの素材・教材を分析・解釈する					
②児童の反応を予想する	5	4	3	2	1
③児童の実態を踏まえ教材研究をする	5	4	3	2	1
④本時の授業目標を明確に述べる	5	4	3	2	1
⑤児童の理解を考慮して発問や質問、指示などを工夫する	5	4	3	2	1
⑥手だて、助言、支援の方法を具体化する	5	4	3	2	1
⑦内容に応じて教具や用具、提示物、ワークシート、機器類などを準備する	5	4	3	2	1
⑧授業内容・展開にそくした学習形態をとる	5	4	3	2	1
⑨板書を計画する	5	4	3	2	1
⑩時間配分を考える	5	4	3	2	1
H 授業の実施（授業中の活動や行為）	5	4	3	2	1
①適切な発問や質問、指示をする					
②明確に発言する	5	4	3	2	1
③場に応じて多様な表現をする	5	4	3	2	1
④児童の発言や行動などを理解する	5	4	3	2	1
⑤児童の発言や行動に適切に対応する	5	4	3	2	1
⑥目的をもって机間指導を行う	5	4	3	2	1
⑦個に応じて対応する	5	4	3	2	1
⑧児童の発言や活動を組織化する	5	4	3	2	1
⑨分かりやすい文字で板書をまとめる	5	4	3	2	1
⑩内容に応じて教具や提示物、ワークシート、機器類などを適切に用いる	5	4	3	2	1

(次のページに続きます。)

項 目	自 己 評 価				
	よく満足している	←	→	ほとんど満足していない	
I 授業実施後の検討	5	4	3	2	1
①児童のノートやワークシート、作品などを適切に批評する					
②児童のつまづきを見い出す	5	4	3	2	1
③授業記録を作成し分析する	5	4	3	2	1
④授業中の児童の発言や行動の理由を推察する	5	4	3	2	1
⑤教材研究の観点から授業を検討する	5	4	3	2	1
⑥教授方法の観点から授業を検討する	5	4	3	2	1
⑦自身自身の授業に対して反省・省察を加える	5	4	3	2	1
⑧次の授業に向けての課題や目標を具体的に述べる	5	4	3	2	1
⑨授業討議に積極的に参加する	5	4	3	2	1

* 記入もれがないか確かめてください。確かめたらチェック → □

設問3. 下の表に、これまでの1週間の反省とこれからの1週間の目標を具体的に記述し整理しましょう。

達成できなかったこと	達成できたこと
これまで1週間をふり返り振り返って	達成できなかったこと
これから1週間目標など	

資料2

授業作りに関する自己評価シート

このシートは、授業作りの際の教材研究や指導案作成、それに実際の授業の実施をふり返ることによって、今後の課題などを発見したりすることを目的としています。それぞれの項目に従って自己評価をしてください。また、ここに記載されていない項目などについても、検討を深めてください。

番号			氏名			記入日	月	日
学級	年	組	授業日	月 日 (曜日)		第	校時	
教科など			単元など					
本時の目標								

記入方法：次のページ以降について、該当すると思う欄を赤鉛筆で囲んでください。

空欄には必要事項をメモしましょう。

- 1 -

児童の実態把握・授業内容の理解・教材研究・教材作成

	D	C	B	A
児童の実態把握	授業を参観していないなど、児童の実態把握がなされていない。	授業参観や授業以外の場での児童の観察、必要な場合には調査を行うなどして児童の様子を見取ろうとしているが、学級の大まかな反応傾向を把握するにはいたっていない。	授業参観や授業以外の場での児童の観察、必要な場合には調査を行うなどして、本時の展開に関する範囲で、学級の大まかな反応傾向を把握している。	授業参観や授業以外の場での児童の観察、必要な場合には調査を行うなどして、本時の展開に関する範囲で、個々の児童の反応傾向をおおよそ把握している。
教科書などの内容理解 (教科の授業で教科書がある場合)	本時の授業に該当する教科書や教師用指導書を読んでいないが、その内容の理解が不十分である。	本時の授業に該当する教科書や教師用指導書を読み、その内容をおおよそ理解している。	教科書や教師用指導書を読み、本時の授業に必要な知識や技能を理解・習得している。	教科書や教師用指導書を読み、本時の授業に必要な知識・技能だけでなく、単元を通して、あるいは前後の学年で扱われる本時に関連する内容についても理解している。
教材研究に関わる文献、資料、情報などの利用・活用 (教科書や補助教材がない場合は、<>内を飛ばして評価する。)	<本校で使用している教科書やその教師用指導書以外の教科書や他の>文献、資料、情報などをみていない。	<本校で使用している教科書やその教師用指導書以外の教科書や他の>文献、資料、情報などをみたが、それらを教材研究のために利用できない。	<本校で使用している教科書やその教師用指導書以外の教科書や他の>文献、資料、情報などをみ、教材研究に利用している。	<本校で使用している教科書やその教師用指導書以外の教科書や他の>文献、資料、情報などをみ、複数の視点から教材研究を行うなど、それらを教材研究に利用・活用している。
教材研究・教材作成	授業内容などの理解がなされておらず、児童の実態も把握していない。	本時の授業内容をおおよそ理解しているが、児童の実態をふまえた教材研究や教材の作成にはいたっていない。	本時の授業内容を理解し児童の実態をおおよそふまえて教材研究をしたり教材を作成したりしている。	本時の授業内容を理解し児童の実態を十分ふまえて教材研究をしたり教材を作成したりしている。

- 2 -

指導案の作成

	D	C	B	A
指導案の書式・指導案作成の目的	指導案の書式に従った記述がなされておらず、指導案作成の目的などを十分に理解していない。	指導案作成の目的を理解し、指導案の書式に従って記述しているが、文言や主語と述語の対応などに不備な点が多くみられる。	それぞれの項目で用いる文言にいくつかの不備がみられるが、指導案の書式に従っており、その作成目的も理解している。	指導案の書式、作成の目的をよく理解し、それぞれの項目で適切な用語や文言を用いて記述している。
教材観・児童観・指導観・単元目標・学習指導計画	それぞれの項目の意味理解が不十分である。	それぞれの項目の意味は理解しているが、的確な記述ができない。	不備な点もみられるが、それぞれの項目の意味を理解した記述がなされている。	それぞれの項目の意味を理解し、的確な記述がなされている。
本時の目標	本時を通して児童につけたい力などを十分に把握・理解していない。	本時を通して児童につけたい力や到達目標の記述について、具体性を欠き焦点化されていない。	記述はややまとまりに欠けるが、本時を通して児童につけたい力や到達目標が具体的に示されている。	本時を通して児童につけたい力や到達目標が具体的に記述されており、文言も適切である。
児童の発言や行動などの予想とそれへの手だて	児童の反応が予想されておらず、手だても考えられていない。	児童の反応が予想されているが、それへの手だては考えられていない。	具体性に欠ける点もみられるが、児童の反応が予想されており、それへの手だても考えられている。	児童の複数の反応が予想されており、それへの手だてが具体的に考えられている。
本時の展開	課題は示されているが、それぞれの学習活動のまとまりや活動間の関連がみられない。	主発問を記し学習活動のそれぞれのまとまりを考慮しているが、学習活動間のつながりや手だての具体性に欠けるところが多くみられる。	学習活動や手だてについて具体性に欠ける点もみられるが、主発問を記し児童の意識の流れを考慮した授業展開を計画している。	児童の意識の流れを考慮した授業展開が計画されており、主発問や重要と考えられる児童の反応予想、それに対する手だて、学習形態など、必要事項が記述されている。
本時の評価	児童につけたい力や到達度を意識した記述ができていない。	児童につけたい力や到達度について見て取る観点が曖昧で記述が焦点化されていない。	具体性に欠ける点も見られるが、本時につけたい力や到達度を見て取る観点がおよそ記述されている。	児童につけたい力や到達度が、見て取る観点を具体的な場面や手だてを示して記述されている。

- 3 -

授業の実施

	D	C	B	A	
授業中の教授行為	発話	授業者の声が小さく聞き取れないことがある。	授業者の声はおおよそ明瞭であるが、一部、聞き取りにくいところもある。	授業者の声は明瞭である。	授業者の声は明瞭であり、必要な間をとる、ていねいに話すなど、話し方に工夫がみられる。
	板書	板書計画が不十分であり、板書が整理されていない。	板書計画を立ててはいるが、実際には十分に整理された板書になっていない。	板書計画に基づき、必要な授業内容を記した板書がなされている。	板書計画に基づき必要な授業内容や児童の発言などを整理し、授業の要点が分かる板書がなされている。
	机間指導	机間指導がなされていない。	机間指導を行っているが目的が不明確であり、その後の授業展開に生かされていない。	児童の見取りが十分に行われていない点もみられるが、目的をもって机間指導を行うようになっている。	目的をもって机間指導を行い、児童の見取りや必要な個別指導がなされている。
	発問や指示など	児童が理解できない曖昧な発問や指示が多く、学習活動がほとんど進まない。	児童が十分に理解できない発問や指示などがあり、学習活動に停滞がみられるところがある。	児童は発問や指示などを理解し活動を行っている。	発問や指示などは具体的に分かりやすく、学習活動が円滑に進められている。
	児童の反応・行為などへの対応	児童の反応や行為などに対応しない。対応しても適切ではない点が見られる。	児童の反応を受容しようとしているが、必要な助言ができていない。ルールに反する行為に注意を与えない。	いくつかの点で十分な対応ができずにいるが、児童の反応を受容し必要な助言を行ったり他の児童の発言や行動と関連づけようとしている。ルールに反する行為には注意を与えている。	児童の反応を受容し、必要な助言を行ったり他の児童の発言や行動と関連づけたりしている。また、重要なつづきを取り出し全体に広げている。ルールに反する行為には注意を与えている。
補助用具	必要なワークシートや教具・用具・機器・提示物などが準備されていない。	必要なワークシートや教具・用具・機器・提示物などが一応準備されているが、内容などに不備があり活用されていない。使用方法も適切ではない。	適切な内容のワークシートや教具・用具・機器・提示物などが準備されており、用い方も適切である。	適切な内容のワークシートや教具・用具・機器・提示物などが準備されており、それらを効果的に用いている。	
指導案に記載された「本時の目標」の達成	それぞれの学習活動が適切に行われず、本時の目標は達成しない。	学習活動の一部、十分でないところがあり、本時の目標を十分には達成していない。残された活動への対応もなされていない。	本時の目標をおおよそ達成している。あるいは、本時の目標は達成されなかったが、残された活動を次時の課題として示している。	本時の目標を十分に達成している。あるいは、本時の目標は達成されなかったが、残された活動を次時の課題として明確化し、それに向けて児童の学習意欲を喚起している。	

- 4 -